

令和7年度 赤穂東中学校区小中連携教育 活動記録

1 令和7年度 小中連携教育研究部会具体的実践

『本年度の研究テーマ』

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 国語科の系統性を把握し、指導の継続性を求めて指導の改善を図る。小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

2 赤穂東中学校区の活動報告

御崎小学校

○実施日：令和7年10月22日（水）

○単 元：6年 詩「生きる」谷川俊太郎

授業者：大仲裕子（赤穂東中学校）

○事後協議

- ・小学校6年生から中学校1年生への学習の不安を取り除くために今回の授業が足がかりになればよいと思う。
- ・ICTの機器の導入により、興味・関心をもたせられるような授業が多くなったが漢字や語彙力など基本的な知識が不足している。
- ・今回は、中学校1年生の一番最初に学習する「朝のリレー」（谷川俊太郎）を学習するため、同じ作者の「生きる」の詩を学習した。「生きる」という題材なので言葉のマッピングを行い、言葉は見えないけれど、さまざまな力があり、つなげていく人を感動させたり、元気づけたりできるようなものに変化していくということを実感できることができたらしい。
- ・今回はトライやるウィーク中という期間で実施したので、小中学校の異年齢で交流も深めることができた。



3 まとめ

- ・年々学力低下が叫ばれており、日常生活の中での語彙力不足や漢字を身につけるといった力は、やはり9年間を見据えて指導していかなければならない。
- ・タブレットなどでわからなければ、すぐに検索したりできるような時代であるが、辞書をひくことにより、その言葉の使い方や周りにある言葉を知ることができるということもある。